

社会福祉法人 Saiseikai Utsunomiya Hospital

恩賜財団 **済生会宇都宮病院**

 病院のご案内



社会福祉法人 Saiseikai Utsunomiya Hospital

恩賜財団 **済生会宇都宮病院** 〒321-0974
宇都宮市竹林町911-1

TEL.028-626-5500(代) FAX.028-626-5594 <http://www.saimiya.com>



理念

思いやりのある
安全で質の高い医療を提供し
地域社会に貢献します

基本方針

1. 患者中心の医療

患者さんの権利を尊重し、満足度の高い医療を提供します。

2. 医療の質・安全

安全で質の高い医療を提供し、信頼される病院を目指します。

3. 地域貢献

地域医療福祉機関との連携、予防医学の推進により、
地域社会へ貢献します。

4. 救急・急性期・高度医療

地域基幹病院として救急・急性期・高度医療を提供します。

5. 職場環境

働きがいを感じることができる職場環境をつくります。

6. チーム医療

職種間連携を強化し、チーム医療を推進します。

7. 人材育成

地域医療のリーダーシップを担う人材を育成します。

8. 健全経営

医療資源を最大に活用し、健全な病院経営に努めます。



済生会とは

明治44年2月11日、明治天皇は、時の内閣総理大臣・桂太郎を御前に召されて「恵まれない人々を施薬救療(無償で治療すること)によって救おう」とのお言葉—済生勅語—を発し、お手元金150万円を下賜されました。桂総理は、この御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募り、明治44年5月30日、済生会を創立しました。初代総裁に伏見宮貞愛親王殿下を推戴し、会長には桂総理が就任しました。

済生会は、医療に恵まれないすべての人々に手を差し伸べるという創立の精神のもと各地で時代の要請に応える幅広い事業を展開しています。施設数も年々増加しており、無料低額診療事業をはじめ、人々が安心して生活できるよう医療、保健、福祉を連携させた細やかなサービスの提供を推進しています。

3つの目標



- 生活困窮者を済(すく)う
- 医療で地域の生(いのち)を守る
- 医療と福祉、会を挙げて切れ目のないサービスを提供

病、老い、障害、境遇.....悩むすべてのいのちの虹になりたい。
済生会はその願って、いのちに寄り添い続けます。

なでしこ
紋章の由来

初代総裁・伏見宮貞愛親王殿下は、明治45年、済生会の事業の精神を、野に咲く撫子に託して次のように歌にお詠みになりました。

露にふす 末野の小草 いかにごと
あさ夕かかる わがころかな

—野の果てで、露に打たれてしおれるナデシコのように、生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人はいないだろうか、いつも気にかけてしかたがない—

この歌にちなんで、いつの世にもその趣旨を忘れないようにと、撫子の花葉に露をあしらったものを、大正1年以来、済生会の紋章としています。



明治天皇



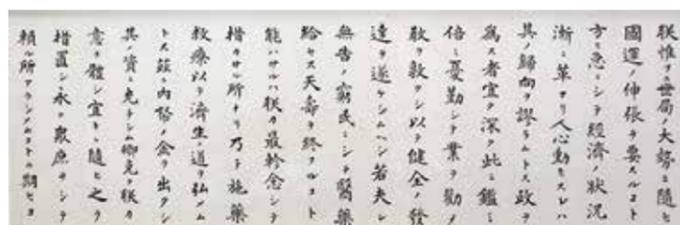
総裁 秋篠宮皇嗣殿下



第4代総裁 高松宮宣仁親王妃喜久子殿下による御書



初代総裁・伏見宮貞愛親王殿下



済生勅語



● 栃木県救命救急センターとして

1981年から、栃木県救命救急センターを受託運営しています。宇都宮市を中心とした広範な地域の第3次救急医療を担い、救急医を中心に24時間体制で重症救急患者を受け入れています。

救急車台数
7,316台

救急患者数
16,325人

救急入院数
5,360人

(2019年実績)



救急患者搬入口

3階救急病棟と渡り廊下でつながる別棟屋上にヘリポートが整備されています。ドクターヘリ・防災ヘリで搬送される患者さんの受け入れや、災害・遠隔地からの救急搬送に対応しています。



ヘリポート



● 継続的な救急医療体制

救急外来

救急外来に重症処置室6床、診察室4床、経過観察室4床を設けています。専用の画像撮影室や血管造影室が整備されており、迅速な診断・治療が可能となっています。

集中治療室 (ICU/CCU)

集中治療室に個室13床、オープンベッド5床の計18床を設けています。ベッドサイドで様々な救命処置を受けられるよう、生体情報モニターや人工呼吸器など、充実した設備を備えています。

救急病棟 (HCU他)

各診療科との密接な連携により、救急から入院管理までの一貫した医療を提供します。



救急外来



集中治療室 (ICU/CCU)



救急病棟 (HCU)

地域を守る救急医療

当院は長年にわたり、地域救急医療の中核施設として多くの救急患者を受け入れてきました。その信頼と実績とともに、これからも高度な救急医療を提供し、“地域を守る”役割を担い続けます。



医療最前線を身近に

高度急性期医療を担う病院として、専門的な医療と技術で地域に安心を届けたい。日々進化する医療に適応し、より安全で確かな医療を提供できるよう、ハードとソフトの両面で充実した環境を追求しています。

● 手術室

全13室の手術室で年間約7,000件の手術を実施しています。ロボット手術室、ハイブリッド手術室をそれぞれ1室整備するなど、専門的かつ幅広い疾患に対応できる体制を整えています。



● ロボット手術室

手術支援ロボット「da Vinci (ダヴィンチ) Xi」を導入。緻密で複雑な手術操作が可能で、より難しい手術にも対応することができます。腹腔鏡と同じ内視鏡手術のため、患者さんの身体への負担が少ない低侵襲な治療で、術後の早期回復に大きく貢献します。



ロボット手術室

● ハイブリッド手術室

手術台と血管撮影装置を組み合わせたハイブリッド手術室を整備。手術室とカテーテル室、それぞれ別の場所にあった機器が同室に設置されています。ハイブリッドな手術によって、患者さんにより低侵襲かつ効果的な治療が提供できます。



ハイブリッド手術室

● 診療センター

当院は各診療科と、それらを支える複数の診療センターで構成されています。お互いが連携しながら、患者さんにとって最適な治療を目指します。下記の診療センターの他、生活習慣病に対する治療強化のための脳卒中センターや消化器病センターなども組織しています。

● 心臓カテーテルセンター

主に大動脈瘤や大動脈解離を開腹（胸）せず血管の内側から治療する「ステントグラフト内挿術」を行っています。「TAVI」（経カテーテルの大動脈弁置換術）にも対応しています。

● 内視鏡センター

検査室6室があり、フルハイビジョンの高精細内視鏡を使用しています。胃がん、大腸がん、胆道系疾患、呼吸器疾患などの検査や治療を行っています。

● 腎センター

空をイメージした天井や休憩室など、リラックスして過ごせるように、配慮がなされています。透析ベッド20床（うち個室1床）が整備され、各種血液浄化療法を行っています。

● リハビリテーションセンター

高い天井にフロアリング、清潔で快適な空間で、安心したリハビリテーションが行われています。医療用リハビリロボット「HAL®」も活用しています。



医療用リハビリロボット「HAL®」



内視鏡センター



腎センター



リハビリテーションセンター

● 放射線部門

高精度の診断・治療装置が約40台設置され、安心安全な医療提供の一翼を担っています。あらゆる検査に対応し、迅速で正確な診断を可能にしています。



320列 MDCT



3T MRI



マンモトーム生検システム



SPECT/CT



血管造影装置



FPD X線

● 集学的がん治療

がんの種類や進行度に応じて、手術治療、放射線治療、化学療法を組み合わせた集学的治療を提供しています。

手術治療

多種多様ながんに対して、より体に負担の少ない低侵襲治療を積極的に取り入れています。腹腔鏡や胸腔鏡による手術や、内視鏡を用いた治療に対応しています。

放射線治療

放射線治療装置「リニアック」を稼働し、効果的で質の高い放射線治療を提供しています。

化学療法(化学療法センター)

30床のベッドが設置してあり、うち10床はリクライニングチェアとなっています。長時間にわたる化学療法をストレスなく過ごせるよう、ゆとりある空間でプライバシーを確保しています。また、空をイメージした天井や液晶テレビなどを備えています。



手術治療



放射線治療



化学療法センター ベッド(20床)



リクライニングチェア(10床)

● がん治療のサポート

緩和ケア

入院・外来ともに、がんによる心身の苦痛を取り除く緩和治療を行っています。本館最上階に位置する緩和ケア病棟(20床)では、家庭のもつ働きや雰囲気重視。患者さんがご家族と一緒により良い療養生活を送れるよう援助をしています。

口腔ケア

院内に歯科を併設しています。手術による合併症を予防するため、放射線治療、化学療法をより適切に行うために口腔ケアを実施しています。

がん相談支援センター

認定看護師や医療ソーシャルワーカーが、がんに関する専門的知識や技術を活用し、がん患者さんご家族への支援を行います。



口腔ケア



緩和ケア病棟

がん診療の拠点

2007年に地域がん診療連携拠点病院の指定を厚生労働省から受けています。

地域におけるがん診療の中核病院として、専門的で質の高いがん診療の提供と情報発信に努めています。



手術支援ロボット「da Vinci Xi」



お母さんと赤ちゃんを トータルサポート

● 母子医療センター

母子医療センターとして周産期不妊部門32床、NICU小児循環器部門18床、婦人科病棟25床を有し、不妊症から周産期、婦人科悪性腫瘍に至るまで、産婦人科領域のあらゆる疾患に対応し得る診療体制を整えています。また、病院自体が栃木県救命救急センターを併設し、地域の第3次救急の役割を担っているため緊急搬送が多く、産婦人科も常時救急に備えています。



母子医療センター LDR室(4階)

● バースセンター

従来の分娩施設とは別に、助産師のみの運営による自然分娩施設として2008年にバースセンターを開設しました。当院最上階の静かなフロアに助産師外来機能とLDR室（陣痛から分娩、回復まで対応する特別個室）を4室設け、年間約120例の正常分娩を行っています。分娩台を使用せず、自由な場所で自由な体位で産むことができます。ご家族の立ち会い出産や、配偶者の方の宿泊も可能です。



バースセンター LDR室(9階)

入院から退院まで 地域で支える

● 入退院支援

2017年に入院サポートセンター（PFM）を開設しました。入院が決まった患者さんに対し、手術前説明や検査説明、持参品や中止薬の確認を行い、安心して入院できるよう努めています。主に看護師からの説明となりますが、必要に応じて薬剤師、管理栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなど、専門の職種と連携し対応しています。また、退院後も不安なく療養できるよう、転院や施設入所に向けた調整、介護保険に関する相談などを行っています。



面談室

● 地域医療連携

地域の診療所の先生方とそれぞれの役割分担のもと、互いに協力・連携しながら地域全体で患者さんの健康管理を行うことを目的とした「連携医制度」を設けています。連携医の先生方には「かかりつけ医」として、日常の健康管理やお薬の処方などをしていただき、より詳しい検査や入院、手術など専門的な治療が必要な場合には当院へご紹介いただきます。地域医療支援病院として、医療機器の共同利用や院内研修の開放なども積極的に行っています。



健診センターは「人間ドック健診施設機能評価」の認定施設です。皆さまが安心して人間ドックや各種の健康診断を受診できるよう、必要な設備や体制を整えています。人間ドックは一泊と日帰りのコースがあり、それぞれに豊富なオプション検査をご用意しています。

専門ドック 脳ドック、PET/CTドック、肺がんドック、乳がんドック、骨密度ドック

● システム化された設備

各種の高性能検査機器を備えており、一連の検査を内部で完了できます。また、電子カルテなどの充実したネットワークシステムにより、院内の専門診療科への診察や検査の予約を行うことができます。



待合（1階） 人間ドック専用の放射線検査・内視鏡検査スペースです。



受付（1階） 人間ドック専用放射線検査・内視鏡検査の受付です。

● 専門のスタッフによる診断・サポート

認定を取得した技師が提供した正確なデータを、病院の専門医が診断してレポートします。看護師や管理栄養士による、生活習慣改善に向けた面談などにも力を入れています。



待合（3階） 検査の合間に広々としたスペースでおくつろぎいただけます。



採血・計測コーナー（3階） 採血や血圧など身体の基本情報を計測いたします。



健康教室（3階） 健康に関する情報を提供いたします。



待合ホール（3階） 大画面テレビを設置し、ゆったりお待ちいただけます。

健康だから、病院に行く

いつまでも、健康で、元気であり続けるために。
自分の体は自分で管理する、健康だから定期的に病院に行く。
地域の方々の健康管理のお役に立てるよう、予防医療の啓発と普及に取り組んでいます。

済生会宇都宮病院の取り組み

● 色彩に富む外来エリア

開放的なエントランスホールに美しく弧を描く総合受付。南北には検査ストリートが走り、これらに面して外来受付（A～E）と検査受付（1～6）が配置されています。各受付を彩るエリアカラー、シンプルなサインが訪れる人を導いており、色による意識づけ・空間認識とともに、画一的でない柔らかな病院づくりに貢献しています。



● 居住空間としての病棟

病室は主に4床室と個室で構成され、大きな光庭を囲むように配置されています。各階に、患者さんやご家族のくつろぎの場となるデイルームを設けるなど、快適な環境に配慮しています。また、多様なニーズに応じるため、最上階にはより広く設備の整った3タイプの特別室（10室）を備えています。



● チーム医療

病院には医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・リハビリスタッフなど、様々な医療スタッフが働いています。それぞれの専門分野での経験や知識、技術を集約して、きめ細かい良質な医療を患者さんに提供し、入院から退院までをサポートしています。

院内チーム

NSTチーム／緩和ケアチーム／褥瘡対策チーム
呼吸ケアチーム／糖尿病ケアチーム／感染対策チーム
抗菌薬適正使用支援チーム／せん妄・認知症ケアチーム
歯科口腔ケアチーム



● 基幹災害拠点病院

1996年より栃木県の基幹災害拠点病院に指定されている当院では、毎年災害時の課題検討や災害訓練を行っています。また、医師・看護師・業務調整員で構成されたDMAT（Disaster Medical Team）と呼ばれる災害派遣医療チームを有しており、災害の急性期（概ね48時間以内）に活動できるよう専門的な研修・訓練を受けています。



● 医療相談・看護相談

皆さまが安心して療養生活を送れるよう、専門スタッフが様々なご相談をお受けしています。ご相談による個人情報は厳守いたしますのでご安心ください。

看護師への相談

入退院・通院に際し、お困りのことや気がかりなことなど

医療ソーシャルワーカーへの相談

病気やケガの療養に伴う、社会的、経済的、心理的問題など生活問題全般について



● なでしこプラン

済生会は創立の精神に基づき、医療・福祉サービスに恵まれない人々を支援する「なでしこプラン」を積極的に展開しています。

当院での取り組み

- 生活に困窮する在留外国人、更生保護施設入所者、薬物依存症者回復施設入所者への無料健診事業
- 性暴力被害者、虐待・DV被害者（児）、ホームレスや低所得者、自殺未遂者等への支援
- 子どもの貧困対策・孤立防止プロジェクトへの参加
- 生活困窮者への就労支援、治療と仕事の両立支援など



● 基幹型臨床研修病院

地域医療を支える人材を育てることも、重要な使命の一つと考えています。当院は、厚生労働省の指定する基幹型臨床研修病院であるとともに、卒後臨床研修評価機構（略称：JCEP）の認定を受けています。救急・集中治療科、外科での研修を特徴とし、豊富な症例と熱心な指導医により、充実した臨床研修体制を提供しております。



● 地域との交流

地域に開かれた病院として、様々な公開講座やイベントを実施しています。院内の講堂（みやのわホール）では、年間を通して多数の公開講座を開催しています。また、済生会フェアやブラック・ジャックセミナー、ふれあい看護体験、院内コンサートなどのイベントも企画・開催しています。



アメニティ施設のご案内

少しでも快適に、便利にお過ごしいただけるよう、アメニティ施設を備えています。
これらの施設は患者さんをはじめ、付き添いの方など、皆さまにご利用いただけます。

● みやのわホール(南館2階)



講堂



ホワイエ



講堂(災害時)

広さ約390㎡、最大380人収容可能な講堂です。
多数の講演会やイベントを開催するなど、地域社会との積極的なコミュニケーションを展開しています。また、災害時には仮設病棟として使用できる機能が整備されています。

● レストラン・喫茶店・売店



エムロード(南館1階)



カフェクレール(本館9階)



スターバックス(南館1階)



ミニストップ(本館1階)